



算数・数学につながる数の指導⑤

今回のテーマは、『減法の計算について』です。

今回は、加法についてお話ししました。今回は減法についてです。加法に比べて、減法の理解は困難です。日常生活において、減法に関する場面を多く経験しておく必要があります。

減法の意味を知ろう！！

前回の号で「加法」の意味を知るために、

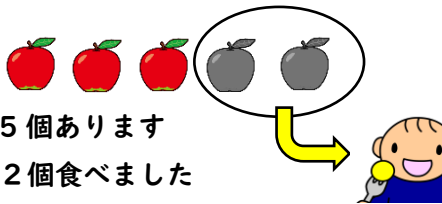
具体的事象を数式に表せること、またその反対の数式を具体的事象で説明できることが大切とお伝えしました。

減法は、2種類あります。

求 残

⇒初めの数量の大きさから取り去ったり、減少したときの残りの大きさを求める。

「○から△なくなると□になる」



5個あります

2個食べました

求 差

⇒ふたつの数量の差を求める。

「○と△の数の違いは□になる」



お皿5枚とケーキ2個の数の違いは？

減法も、具体物の操作を用いた指導をしていきますが、、、

求残では、、

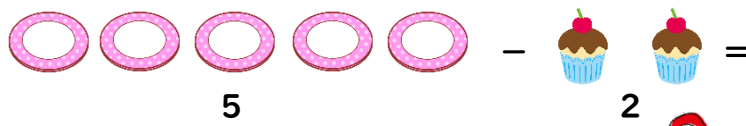
(問) 5個のりんごがありました。2個食べました。残りはいくつですか？

$$\begin{array}{ccccccc}
 \text{りんご} & \text{りんご} & \text{りんご} & \text{りんご} & \text{りんご} & - & \text{りんご} & \text{りんご} & = \\
 5 & & & & & & 2 & & \\
 \text{減数の } 2 & \text{は被減数の } 5 & \text{に含まれています。} & & & & & &
 \end{array}$$

明らかに何かが減っているので分かりやすい！

求差では、

(問) お皿が5枚あります。2個ケーキがあります。お皿に1個ずつのせるとお皿は何枚あまりですか？



その場には全部で『7』
足してしまいがち、



求差は、対応付けをしっかりと理解し、『多い方から少ない方と同じ数だけとる』ことに気づいていけるように支援していく事が大切です。例えば『対応』の理解を深めるため、ケーキをお皿にのせるという課題を準備し、操作を通して理解を深めるようにします。ケーキとお皿を1対1対応させる動作(ケーキをお皿にのせる操作)をしながら、引くことを意識させていきましょう。



お皿の方が多い!
 $5-2=3!$



と、いうふうに減法の指導は、難しい面があります。指導していく上で、子どもたちのつまづきがどの部分であるかを細かく把握し、『減法の意味の理解』に繋げていく必要があります。日常生活の中で減法に関する場面を、たくさん経験することが必要だと思います。

※連載講座「算数・数学につながる数の指導」筑波大学人間系教授 川間健之介 より

※参考資料 ジャマ育ブログ

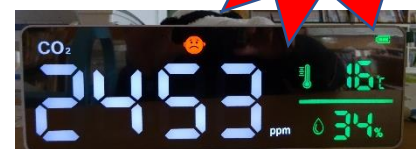
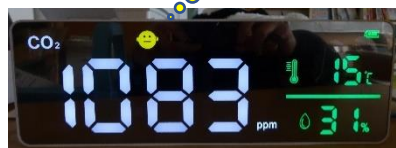


新型コロナウイルス感染症予防対策として、教室内の二酸化炭素濃度を測定できる装置を教室に設置しています。こういうものも、児童生徒にとっては、視覚的に理解しやすいですね。

GOOD!

窓を開けましょう

いますぐ換気!



数値が1000以上になったら、換気の合図です!!表情や色でも分かりやすく示されています!!



きのかわ支援学校 教育支援部 寺尾 朝井
TEL:0736-42-0415